女學雜誌

第二百七十一號

明治二十四年六月廿七日發兌

武道の辨

女子薙刀の評判頻々たる今日武道に對する愚見を吐露し大ひに大方に質す所ろあらんとす。

下六番町六番地
女學雜誌社

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 271 JUNE, 27TH. 1891.

EDITORIAL:—On the Warlike Accomplishments.

CHILDREN'S COLUMN:—"Little Lord Fauntleroy." (A Translation.)

SCIENTIFIC:—A Call during the Rainy Season.

MISCELLANEOUS:—Human Life.

THE HOUSEHOLD:—Woman's Employment.

NOVEL:—"Courtship of Miles Standish." (A Translation.) "Shikwai no Arashi." (A Story of Persecution in Japan in the 16 Cen.)

OPEN LETTER.

CRITICAL NOTES.

NOTES AND NEWS.

QUESTIONS AND ANSWERS.

CONCERNING WOMEN.

第二百七十一號目次

社説　武道の辨。

兒籃　小公子(若松しづ子)。

理學　梅雨中の訪問(吉田伸子)。

隨感　人生歎(方寸子)。

家政　女子の職業(蓮峰外史)。

小説　マイルス、スタンヂッシュの戀(愛山逸民)●紫海の嵐(みさを)。

批評　新教三書(撫象子)●僞醜惡日本人(同)。

笑草　かいつけぬ(ひさご)。

時事　會社銀行●文部省●現内閣●休課中●民間の先生●學校●事業。

問答　不幸なる人の問●第三回夏期學校●擒縦自在(可愛子)。

女報　さまぐ

週報

物價

文部大臣子爵榎本武揚公題字

大學院醫學士三島通良先生著

皇后宮御覽

増補訂正第二版

はゝのつとめ

親の巻　妊婦産婦の心得　定價金三十錢(郵税二錢)

子の巻　日本育兒法　定價金四十五錢(郵税四錢)

右は我國無双との好評を博したる日本母子衞生書なり今般増補訂正の上出版したり醫科大學産科婦人科小兒科病室幷に群馬縣高等小學其他諸女學校に於て參考書又は用書として使用するところ少からず

書肆　通三丁目　丸善。表神保町　中西屋。馬喰町　島利。春木町　島利支店。通塩町　中央堂。

下六番町　女學雜誌社

●前號永田義原氏の廣告、子宮病特効薬の一大發見の次の行〔二日分入十錢、七日分入三十錢〕といふを脱す。

子宮新藥

六合雜誌　第百二十六號　六月十五日發行

目次

○アルノルド、トインビー氏小傳　文學士　和田垣謙三

○トインビー氏經濟批評　ドクトル、オフ、フイロソフイー　小野英次郎

○基教信仰ノ起原ト新約全書　ドクトル、オフ、フイロソフイー　横井時雄

○生物之起原　理學士　五島清太郎

○音樂論　山田寅之助

○ツルゴウ　家永豊吉

新刊批評　グリフイス氏著本田次郎○田口卯吉氏編史海○三宅雄次郎氏著日本人

本誌定價一册八錢○半ヶ年分四十三錢○一ヶ年分八十錢○全國無遞送料○毎月一回發行

發行所　東京市本郷區東竹町三十四番地　警醒社

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌 第二百七十一號 明治二十四年六月廿七日發兌

社説

武道の辨（上）

（一）新　喝采

女性が薙刀を演ずるゆえよしは、早く物の本にも見え、世穏やかにして太平打つゞきたる頃ほひも、心ある武門の婦人は總じて之を棄て難きことに思ひける。左れど、明治維新の代となりては、武士は腰より大小を脱し、鎗を握ることを止めて、梶棒をしごくの有樣となれりしかば、たとひ躰育を重んずるの教育家と云へども、之に武藝を用ひんことを欲するものあらず。况してや武藝を一の武道として其眞髓を教えんと欲するものに至りては、殆んど絶無の姿にてありき。

吾人此の景勢に遺憾なきこと能わず、未だ深く武道を知るものにあらずと云へども、窺がつて其微光を認ためたる所ろのものなきにしもあらず。首べを擧げて天下の有志者を見れば、其議論は如何にも立派なり、左れど其心膽度胸に至りては、古への武士に劣るもの多し、所云る言伸びて身伴わず、論達して行ひの合わざるもの歟、其由縁する所ろを察するに、正に練膽修行の實教育を欠くに源ひするが如し。特に、彼の女學生を見るに、其女權を談ずる口の端は如何にも滑しげなり、なかく古しへの女子が企だて及ばざるもの丶如し、されど一朝事起り、正邪二つに分れ、意を決して其操を斷行することあらんの日、果して能く女子の權を守護擴張するの眞勇あるべきかと計慮し、密かに思案する所ろのものありき。

楚の國の英雄曰く、劍は一人の敵なりと、則はち劍を棄てゝ兵法を學びぬ。左れど其の効驗は敵するにありとせば、たとひ万人の敵たることを得ると云へども、吾人は之が爲めに學ぶことを喜こぶものにあらず。吾人が所云る劍とは人を殺すものにあらず、人を生かすものあり、撃劍演武するは、人に敵することを旨とするにあらず、和らぎて人に親しむの沈勇を養なわんことを望みとする也。かゝる主旨を以て、武道を觀、吾人が之を重んずるの念大方ならずありき。

然るに、二年前明治女學校は、其躰操の別科として武道の一目を添え、星野愼之輔君を聘して、有志の女生に就いて之を

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

學ぶヿを許しぬ。當時世の評判に云へらく、女生の風儀之より暴々しからんと。亦或人は慨して云はく、男子之より枕を高ふするヿを得じ、良人万一不當の言語あらんとき、細君あげしの長刀をつ取り、小脇にかひ込み、イザ勝負など挑むことあらんの日、そも如何にすべきや、之を以ての故に女子が武藝の修行は極めて有害なりと。吾人は之を傳へ聞き餘りの事に苦笑して、社中ともに嗟歎したるヿもありぬ。

爾來二年、明治女學校有志女生が修武の効果顯然として明けし。彼等が風采は凜然として一種の氣骨を備ふるに至り、同時に、別種言ふ可らざる温雅肅々の美容を添え、毫も暴びたる躰なし、之を小笠原家の高弟に聞く、武藝鍛錬の風采は、女禮修業の身態に異なるヿなしと、果して然り。扨て、其心膽の安んずる所ろに至りては、外見未だ之を明認するヿ難しと云へども、其物に動ぜずして常に安靜たる景色、而して一變有事、靜中乍ち大ひに動かんとするの機を微輝としてきらめかすの様、得て形容するヿ能はず、察するに心裏安着の礎亦た大ひに固結したるが如し、膽を練り行を修むるの點に於て、果して良結果を奏しぬ。

明治女學校は、二年間の經驗により、確認する所ろあり、今后は一層武道を擴張します〳〵其眞利を顯揚せんヿを欲せらるゝよし。他の一二の女學校に於ても、此の好結果を認ためて大ひに安んじたるものゝ如く、近ごろ亦之を創めんとせらるゝものゝ如し。

六月二十日、帝國ホテルに音學會あり、此時、明治女學校生徒、松井まん、佐藤すけ、河野たけの三子、平素鍛養修練する所ろの薙刀を演ず、開合擊拂、一飛一躍、閃めく電の如く、發する石火に似たり、千餘の看衆、如何に之を觀、何如に之を評しけるかは、本號女報欄内に收載せる三新聞の記事によりて推知するヿを得べし。

斯して、女子演武の事、今や都門の一談柄となりぬ。故に吾人は此際、平素の愚見を吐露し、武道の眞髓を發揮して、些さか大方の參考に供するヿを得ん。

(二)　武の藝、及び道

人は心と身躰とを具備す。細かに其關係を論ぜんとは、生理心理などの學にて論つらふべき者ゆへ、今は言はず。左れど、兩つのものゝ相關係するや、喩へば河口の流れに、淡水と鹹

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

水との相混ずるが如く、朝夕のうす明りに光りと暗らきとの相接はるが如し、何れよりを心とし、何れよりを身躰とすべきかを知らず、たゞ知る所ろのものは、二者の親密に相關はると、是れ也、而して人の一事を爲すにも必らずや此の二者に關係せざるを得ざると、是れ也。

左れば、心に道を聞くと云ふと雖ども、身に之を行なふに至つては、大ひに身躰を制し之をして心の命ずる所ろに甘從せしめざれば能はず。然るに、身躰には、生來多年の習慣深く之に染まり、反射運動となりて之を動かすの動機少なしとせず。たとひ心命を發して其實行を四肢五躰に求むと云へども、四肢五躰は悉とく之に甘從すると能はざる也。此を以て、人を教育するものは、其心に道を敎ゆると共に、其身躰を慣らし、習慣を形ち造りて第二の天性を其身躰中に深く刻み、以て其道を實行するに容易からしむ。古來僧侶が道を修むるの工夫亦た之に同じ、或る時は、高山に登り木の實を食ひ躰を疲らせて、難界道を重んずるの習慣を得、或る時は谷に降り大瀧に打れて百躰を難ませ自若として道を守るの決心を養なふ。蓋し是れ、心と身躰とを一にして、靈魂の所望悉とく身躰に協ふに至らんとを欲するが爲めなり。

武藝の効益亦た、之に等し。たとへば、劍を持ち兩々相ひ對するの時、敵の面を一つ二つ打ちたりとて何の効あらんや、杖を以て石を打つに同じ、亦己れ不幸にして眞甲を三つ四つ連打さるゝとあらんとも、帽子の上に樹枝五六落ちかゝりたりとせば、何も怨むとなけん。擊劍の仕合に於て若し擊つ叩くと云ふとを主旨とせば、わざ〳〵稽古道具を新調し、相手の人を勞する迄もなき耳。

仕合の妙は他にあり。劍頭相接し、氣息沈靜、彼我相窺がふの時、心膽肚の眞中に安居し、靈光五躰八腐に透徹し、渾身總て膽を滿たし、分寸の隙所なきに至らんとを期す。端なく毛隙を生ずれば、劍躍動して切込み來る。無想の膽、急發、隻手飛動、すでに他の劍に應じたり。………此般變化攻守の間だに、心靈身躰の結合を試み、膽をして暴りに驚かしめず、躰をして徒らに戯れしめず、隱て寸厘の一點に沒する時も、心身共にあり、擴充して天地に滿る時も、心身共にあり、五尺の躰軀すべて我なりと云に至りて、武藝修練の工夫正に達したるものの歟。

而して武道と云ふものに至りては、文道と正に同じ。文武元來二つにあらず。文事に於ては、文字によりて其眞髓に達するとの如く、武道に於ては、其武藝によりて其堂奧に入らんとを欲す。項羽が劒に嘲ける所ろのものは、高祖亦た文に於て非りぬ。云く、文は名を記するに足る耳と。もし其形骸に屈托して其精神に入らずんば、文武ともに何れか淺薄徴益に陷いらざるとあるべき。

吾人が所云る、文道の文字にあらざるとの如く、武道は亦た擊劒薙刀の武藝にはあらず。左れど、字によりて文に入るとの如く、技によりて武に達するの理はりは同じ。蓋し、もし能く文に達すれば文事教育唯一にして可なり、若し能く武に達すれば武道教育唯一にして可なり。日本昔時の武家は唯武を以て能く世の活法に通じぬ、西洋文明國の男女は唯文を以て能く德行を修めぬ。左れど、二者もし文武を合せ學ばば、功果の修得更に容易かりけん。況んや、世變遷の機に際し、万事移り行きの途中に在る頃ほひは、必らずや文武の二道を以て人を教へずんば不可也。更に況んや女性の本性旨と文に僻するに於てをや、彌よ以て之に武を配合せしめずんばある可らず。

兒籃

小公子。

第六回（丙）

若松しづ子

彼の大犬のダガルは、セドリックが席に着きました時、其側へ坐つてゐましたが、幾度かセドリックを見擧げて、始終の話しに身が入つてゐるかと思ふ樣な素振りをしてゐ升た。ダガルといふのは、中々嚴格な犬で、自分の犬柄に對しても、輕々しく世に處するとは出來ぬとおもつてゐる樣子があり升たが。此犬の平生を好く知つて居られた老侯は、それとはなしに注意して其の樣子を見て居られ升た。ダガルは中々粗忽に知己を拵へる樣な犬では有ませんかつたから、セドリックが撫でるのを何ともせずに靜かに坐つて居つたのを見て、多少不審に思われました。そして丁度此時ダガルは泰然と搆へながら、フォントルロイ殿を熟思して、今度はすざましい獅子の樣な頭を黑びろうどの少さな膝の上へ態々載ました。セドリックは少な手で、新たに出來た友だちを撫ながら、問に答へて、

それからそら、ヂック子、あなたキットヂックが好ですよ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

どふも大變キチヤウメンですもの。

侯爵どのは、流石此俗語は初耳と見えて、

全躰それは、どういふ譯なのだ?。

フォントルロイは暫らく思案してゐました、自分でもキチヤウメンの意味が判然分つて居つたのではなく、たゞヂックが好んで用ゐた言葉ですから、好いことに相違ないと信じて遣たのでした。

僕はヂックが誰も欺したり、自分より少さな子を打たりしないで、人の靴を磨く時は出來る丈光る樣にするといふ譯かと思ふんです、ヂックは靴磨が職業なんです。

そうして、それが貴樣の知己か?。

エー、僕の古い友だちです、ホツブスおぢさん程年をとつては居ないけれど、隨分大きいんです、船が出帆する前に進物を呉れたんです。

此時セドリックは、手をポッケットの中へ入れて奇麗にたゝんだ赤い物を引出し、鼻高々とこれを廣げました。それは、例の紫の馬の首や、馬の沓が織り出して有つた、赤い絹のハンケチでした。

これを呉れたんです、僕はいつまでも持つてるんです、ね頸へも巻けますし、ポッケットへ入れて置いても好いでせう、僕がヂェークにお金を遣つて、ヂックに新しひ刷毛を買つて遣つてから、餘かつたお金で直ぐと買つて呉れたんで、ヂックの餞別なんです、ホツブスおぢさんに時計を遣る時、を見て僕を記念し玉へと書きましたが、僕はこれを見ればいつでもヂックのことを思出すんです。

さて尊ときドリンコートの城主が、段々の話を聞かれて、心に起こされた感覺は、容易に明狀することも出來ません。隨分世なれた老成貴人で、輕々しくは物に動じる樣なことはないのでしたが、こん度といふ今度こそ、出逢たもの餘り異樣なのに呆れて、殆んど言葉も出ぬ程でした。此おん方は、一躰子供は嫌なのでした、自分の樂しみに屈托して、子供などに構ふ暇がないのでした。御自分の子供らが幼少な時分、別段可愛いゝと思つたとは有ませんかつたが、たゞセドリックの父丈を立派な、勇しい子と思たことのあるのを、時々思ひ出す位のことでした。御自身が此迄萬づ勝手氣儘を通されて、人の互に相讓づる美しい處を見る暇さへ無かつたのでした。心術の好い子供と

いふ者は、どの位優しく、信實で、愛の深い者か、おどけなく、無心な擧動の中にどの位淸素、仁愛な情が籠つて居るかといふとは、丸で御承知なかつたのでした。男兒といふものは、極く嚴しく限制しなければ、いつも我儘で、物ねだりしたり、騷々しくする至極く迷惑な動物と斗り思つて居られました。この二人の息子どもは、絕へず師匠どもを困らせ、苦しめた樣でした。それに末の子に付いては餘り苦情を聞かないで濟んだのは、必竟餘り大事な子でなかつた故と想像して居られ升た。さて此度は、又孫息子が自分の氣に叶わふかなどゝは、少しもおもつて居られた譯でなかつたので、只幾分かの名譽心に迫まられて、セドリックを迎に遣つたのでした。兎に角、其子供が未來には、自分の跡を繼ぐので有つて見れば、敎育もない下郎に家名を繼がせて、人の物笑ひになつても、折角と想はれ、かつは米國で其儘成人させたらば、いよ〳〵下賤な者になり遂せるだらうと、たゞ掛念せられた丈の事で、セドリックに對し、愛情などの有つた譯ではなかつたのでした。なる可は、器量も見憎からぬ程で、外聞のわるいほど馬鹿でなければ好いと思つて居られたもの、年上の息子どもには失望を極はめ、末のカプテン、エロルには、米國人との結婚一件で、恐ろしく憤つて居られましたから、婚姻の結果として何もめで度いものが有ろうおどとは、努め考へず、給事がフオントルロイ殿のお入と忠信した時には、自分がかくあらうかと掛念してゐた快からぬとを、今面り見ることかと、子供に顏を合するが嫌で堪られぬ位でした。いつそ失望す可きものならば、其失望を人に見らるゝが忍び難いといふ高慢心が有つて、必竟さし向ひの對面も命じられたのでした。とふいふ處故、尙更、セドリックが恐氣なく手を大犬の領の上に置ながら、泰然と濶步して進んで來た時には、傲慢、頑固な心も、飛立樣でした。思ひ直して極々高く望を持つた時でさへ、とんお孫息子が有ろうとは存じの外で、顏を合せるさへ憚りに思つた者、又自分があれまでに嫌た女の子が、これ程美麗で、品格が高いとは、餘の僥倖で、夢かと思はれる程でした。流石の老侯も、此驚きに對しては、嚴格な居擧さへ崩そうでした。

それから、對話になり升たが、おほ〳〵妙な感覺を生じ、益々不審が晴なくなり升た。第一、自分の前へ來ては、大抵の人がこわそうで、何か間が惡そうに、モヂ〳〵するのを見慣れて居

られましたから、孫も矢張り恥づかしがつて臆せて居るとと認めて居られました處が、セドリックは犬を恐れない通り、又侯爵をこわがる樣子も有ませんかつた。決して出過といふではなく、たゞ無邪氣に人懷こいので間をわるがるとか、恐れるとかの譯などが有ろうとは一向思なかつたのでした。老侯はセドリックが高い倚子へ腰をかけて、誠に何氣なく話しをしてゐる處を御覽じると、自分を疑ふ處などは毫末もなく、見てもこわらしい樣な大きな老人が、自分にはどこまでも深切と思ふより外の考もない樣でした。そうして此通りに面會して話をするのが嬉しく、どふぞお祖父樣にお氣に入て、お悅こばせ申度といふのが、頑是ない中によく見えて居ました。老侯は固より癇癪持で、頑固で、世俗的の人物でしたが、さて此通りに信じられて見ると、自然心の中に一種新たな愉快の感じが起りました。自分を狐疑するとも、忌み憚かるともせず、自分の性質の嫌ふ可き處を、見現わした樣にも見えず、淸かな、よどまぬ眼で、チット見れるのは、黑びろうどの服を着た小息子にでも、どうやら心持の惡いとは有ませんかつた。それ故、老侯は、倚子に憑れてゐながら、セドリックが自分のとをずん／＼話せる樣に問をかけました。そうして、妙な眼つきで、頻りに其樣子を見て居られました。一方では、一々其問に對して、雜作もなく答へまして、例のなれ／＼しい樣な、子細らしい樣な、調子で、引も切らずしやべり升た。其話といふは、ヂック、チェークのとや、林檎やのばゞのとや、ホップス氏のとで、中にも國旗や、松火や、花火で賑かな獨立祭の話が有ました。此話になつて、まだ革命のとに熱心にあろうといふ處で、何か、フト考へた樣子で、急に話を止ました。

何事だ?、なぜ其先を申さぬのだ?

とお祖父樣がお咎めになりました。

フオントルロイは、倚子の上でモヂ／＼して居まして、老侯は何か思出したとで、間がわるくなつたかと、氣が附れました。

僕は子、あなたがヒヨット其話嫌かと思つたんですよ。誰かあなたの親類かなんかゞ、あの時にゐたかも知ませんから子、僕はあなたが英國の人だつたの忘つちまつたんですもの、

ナニ好い、ヅン／＼話すが好い、おれの附屬のものなどは、それに關係はないから、ダガ貴樣は自分も英人だといふと

を忘れて居るな。
セドリックは、口ばやに、
イ、へ、僕はアメリカ人です。
老侯は苦々しいといふお顔で、
貴樣は、矢張り英人だ、貴樣の父が、英人じやもの。
老侯はこふいひながら、心の中に少しおかしく感じられましたが、セドリックには少しもおかしいことでは有ませんかつた、こふいふことにならうとは前もつて思ひもふけぬことでしたから、頭髪の根本まで熱くなつた樣な氣がしまして、
僕はアメリカで生れたんでせう、アメリカで生れゝば、だれだつてアメリカ人にならなくつちやいけないじや有ませんか、(此時一層まぢめになつて、言葉丁寧に)どふもあなたのおつしやることと反對しまして御免なさい、デスガチ、ホッブスさんが、こんど戰が有れば、僕はアメリカ人にならなくつちや、いけないつていひましたもの。
此時老侯は苦々しい樣な笑樣をなさいました。短かくつて、苦々しい樣でしたが、矢張り笑は笑でした、
さ樣か、アメリカ人になるのか?

とたゞ云われました。米國も米人も大嫌な侯爵どのでしたが、此年若な愛國者の、かくまでまじめで熱心なのを面白く思われて、國を愛する米人ならば、成人の後は、矢張り國を愛する英人になるだらうと思われたのでした。

理學

梅雨中の訪問

吉田のぶ子

……埃拶も濟み、くさ〴〵の話しありて、私はどうも持病の所爲ですか、毎年々今時分になると、なんぞといふと心地が惡るかつたり、頭痛がしたりして、兎角勉强の出來ないには困りきります。
主婦「マアそれはお困りでございませう、しかし此梅雨になると何人も氣分がすぐれぬものです。
女客「それはどういふ理由ですか。お話序にお聽せなすつて下さいな。
主婦「私もよくは存じませんが、いつたい人の身體の皮膚から斷へず濕氣を蒸發て居つて、其氣のよく出ますときは別

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

段氣分に變りはありませんが、居廻りの空氣が澤山濕氣を含で居つて、皮膚から蒸發して立つ濕氣を受け容ませんときは其蒸發すべき水分が躰外に出でずに、躰内に滯つて居りますから、自然氣分がよくない譯です。そうして皮膚から蒸發して立つ水氣は、血の中に在る過量の水に汚穢老廢物を含で居るのだそうです、どうもそんなものに溜て居られては、ネエあなた困るではありませんか。

女客「ヘエなる程、そういふものでございますかネエ、それではだれでも氣分の惡い譯です。………志て見ますとアノ澤山お冷水を飲んだとき、澤山汗の出ますのも、矢張其血の中にある過量の水が出るのですか、どうも人間の身躰といふものは、能く造へてあるのですネエ。

主婦「左樣でございます、まだ其外にも皮膚の蒸發作用の爲めに、都合のよいことがあります、それは當月の始の女學雜誌にも載てございました通り、總の蒸發が常に温度を減しますと同じことで、水分が汗となりて出ますと身躰が幾分か清涼しくなります、それですから濕氣の多い日はいやに蒸し熱ふございます、まだ／＼其ればかりではございません、此梅雨中は疊も壁も衣類も黴臭くなつて、べた／＼しますし、金具は銹るし、彼處でも此處でも物が腐敗ていやな臭ひが志ますし、どうも仕方がありません。マアどうして見ても當節は病芽の製造時期に違ひはございませんから、なんでもこんなときにはお互樣に、養生が肝要でございます。………オヤお茶が冷めました、美味はございませんが、お菓子を一ツ如何ですか。

女客「有難うござります、もうお搆ひ下さるな、お蔭さまで大層爲になるお話を伺ひました。

隨感

人生嘆

カす子

われ役々、將來を望んどアセリ行く、アセリ行く處、何の得るものかある。われ營々として時を送る、われ時を送るに非ず、時われを送つて駸々たり。知らず、時われを送つて何處にか行く。將來、將來、そも何ものなりや、われ時を追ひ、時われを追ふて、將來に達せんとす………。始皇一度び去

つて復返らず、不老不死の仙藥、何處にか在る。死なり、死なり、看よ墓頭の白雲、影正に寒し。

春、花と共に來れば、人心蕩々平たり、謠ふべし、舞ふべし、春宵一刻値千金。斯くて謠ふ者、舞ふ者、此處彼處に三々五々たり、されど世間茫々、泣く者、悲む者、幾々許かあらざらん。昨、われ花を觀て歸る、途上われ棺を見送つて涙したり、棺の人、棺を送る人、人間抑も如何と。ア、昨われ涙もて棺を見送れり、奚ぞ知らん、明また、われ涙もて見送られんとは。想起す古歌の意、「昨日見し人は如何にと問ふわれも明日は如何にと人に問はるゝ」。

人生、人間、觀じ來れば、實にこれ、涙もて生れて夢と過ぎ夢と過して涙に終る。人生そも何事なりや、人間そも何者なりや。瞑默一念、自問し來れば、……温容楚々として前に在り、奇し、眼を開けば温容失せて、微笑わが胸に嬌々たり。「あゝ愛よ、もろ〳〵の快樂の中にありて、汝は如何に美しく、如何に悦ばしき者なる哉」、見る〳〵、われはソロモンの謠に恍々如たり、温容再び現じて楚々われを觀眄へる。

ア、春宵秋夜、能く無聊を消して無常の世相によろこび、千艱万難、能く失望を止めて營々の日を送り來る、何すれの情ぞ。梅は月を思ひ、月は梅を戀ふ。皆これ相思相愛、一片情緣の微笑あるに由らずんばあらず。若し夫れ、われより此情緣を取り除かば、われ一日も生存ふを得せじ、誠やわれに希望を懷かせ、われに信念を有たしめて、能く生存はしむる所以のもの、只夫れ愛の偉なる哉。されど翻つて人生の命運を念へよ、「時」なる不思議のもの、徐かにわれらを載せて、永遠聲なきの世界に急ぐ。アナ哀れ、父よ、母よ、夫よ、妻よ、子よ、友よ………。只看る、詩人花の蔭に眺めて嘆ずるを、「年々歳々花相似たり、歲々年々人同じからず」と。只看る、聖人川の邊りに佇みて觀ずるを、「逝く者斯くの如きか、晝夜を舍てず」と。

今やわが友にして、父病める者、母病める者、兄病み、妹病みて、專心看護に熱涙を手向くるもの、そも幾人、愛子氣を勵まして老躰を慰むれば、老躰顏をそむけて涙を呑む。わが知れる小天地、猶この慘憺を見る、况んや漠々たる世相をや。われ肅然として考ふ、考ひ來れば優々磊々のわれ、動搖幽かに鼓つて悄々たり。

嗚呼人生、人生果して此くの如し。嗚呼情緣、情緣果して此くの如し。われ瞑目して已が信念に質すに、愛の交りの限りなきを證す。離るべからざる、斷つべからざる、親子、夫婦、兄弟、朋友の情緣、豈に五十の春秋を限らんや。世相果して眞なるか、信念果して誤りなるか。われ若し靈性の不滅を信じ得ずんば、われ若し昭々の天道を信じ得ずんば、何を以てか生存ふことを得ん。信なる哉、信なる哉。

The world recides; it disappears;
Heaven opens on my eyes! my ears
With sounds seraphic ring:
Lend, lend your wing! I mount! I fly!
O Grave! where is thy victory?
O Death! where is thy sting?

Pope.

家政

女子の職業

蘆峰外史

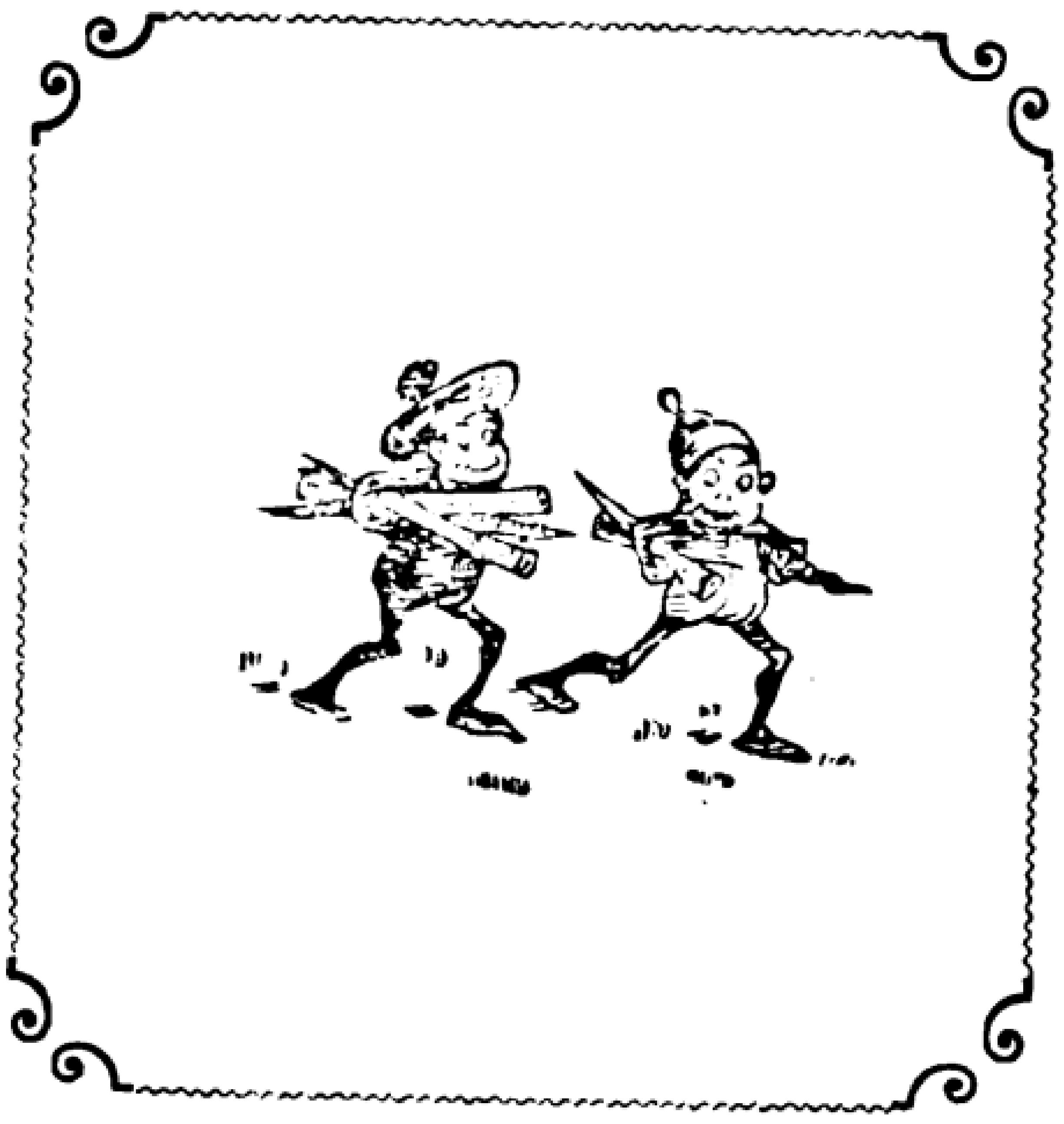
志ふかく染ずば松の木にゆかりの色を末かけて花はさかじな藤かづら女はその信愛する男子に一生を托しておのが優美なる心の花を以て夫の事業をかざり男は玉の盃の底なきが如く冷澹ならずして女の愛情の密なることを悟り心腸裏に蟠る磊磊の氣を挽平して輕擧暴動を戒め世にはなく〳〵艱事を爲さんと欲するなり「私はこなたと思ひ染め面倒みよふ見られふと賴しづくの盲交」とは近松の筆の跡男女相思の情態をよくも寫し得たるものかな金殿玉樓に起居して鴛鴦の衾の裏に夢を結ぶ人夕かほ棚の下蔭にてゝら二布で暮す身もたがひに思ひ思はるゝ愛の情はたゞ一ツきせう誓詞に誠あらば男女同權を唱ずとも何ぞこれにます幸福あらんや去がたき親子の中にもをりに觸れては離るゝとはあるものを行末かけて結びかためし緣の糸他權のなか〳〵に斷ち切るとはかのふましそは如何といふに男は女に由ざるとなく女は男に由ざることとなし拿破翁か繁雜なる腦中の經綸もカサレナの流麗なる音調によりて

慰められ華盛頓が將士の心を得たるもマルサの內助にあるとしいへば男女相待つて後鴻業雄圖も成し得べきものならん吾が邦男尊女卑の夢や丶覺め來りたるは男子が婦人に一步を讓りたるにはあらで婦人をして男子の榮たらしめんとの眞理は朦朧げにも心の闇を照したるものぞかし今や社會內部の事は婦人の手に委托すべきものありと信じ算盤ぱちく〳〵蚤取眼で金利を勘定し五慾の炎に頭も藥鑵と禿かゝやきたる高利貸も貸附帳は女房に預け入るを喜び出すとを患る取込主義の亭主だも家內雜費の會計は妻に任ずることゝなれりしやく取蟲の一足飛で御酌とか御職とかいふ境遇より爵とかいふ印のある地位へ一ッ飛した夫人がたも撥の先でピンとすぬる位では當時の社會學にはかなわぬゆへぐるり〳〵と口車に人も載せ自分も乘て社交の周旋を勤めらる「婦人の智識もサテ開けたナア」と八字の髭を兩手で握る樣に延して感服せらるゝかは知らねどもこれしきの事にといふて女子敎育家のみ迷惑顏せり先づ內幕へ入りて見れば婦人の職として務むる處は其品格を高くし社會に有爲の器とならんよりはむしろ男子の歡心を求めんとするに外ならず其敎育も歌舞彈琴英語會話等にて男子を凌駕すべき學識なく自立の志は全く消滅して百事男子の手を借て其義務を果さんとする者の如し、我は平素歐米高等の敎育は未だ本邦一般の婦人に適應するや否を疑ふ者なり況や歐米社交の雛形を學ぶに於てをや婦人社會今日の急務は品格を高し男どもの尊敬を受る修業よりもむしろ清潔なる愛情によりて夫婦相密着するとを務むるにあるなり婦人をして擧て學校敎員の候補者たらしめんか近時の敎育法決して取る可き所なきにあらず社交上周旋人たらしめんか舞蹈彈琴唱歌英語會話を學ばしむるも可なりされど將來自立の大計を定め或は一家の經濟を負擔し男子をして內顧の患なからしむる如き婦人を得んと欲せば今後敎育の方針を轉ぜざる可からず我は此際技藝を奬勵せんとを望むなり婦人をして職業に從事せしむるは自家獨立の志を養ふの第一着手なれば父兄たる者は之を奬勵すべきなり電信技手簿記の如きを婦人の手に委んとすることは世人の夙に注目する所なれど養蠶の世話或は縫繡造花裁縫器械機糸取はこれを奬勵するもの甚だ尠し坐して人の食を食し人の衣を着自己が無一物なるをも慙とせざる假裝貴婦人は職業を卑んで下等社會の事なりと嘲る者あれど今日の社

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

會には富者一人貧者九人にして衣食に奔走する時なれば高くとまりし森の鴉の樣にもゆかず封縣時代には士族にして職業を營む者は其社會より之を擯斥したるも士族も平民も其實は同樣にて、たゞ貧富を以て社會人物の高下を定むる時には男女力を併せて家を富すの策を講ぜざる可からずされば婦人が職業に從事するは敢て卑むべきことにあらず婦人が其學び得たる學術を以て社會に立たんとする時は未だ來らざればなり試みに見よ文學士法律學士の名稱を帶びて大學の門を出で社會に一事業を起さんと欲し自己の資財を傾け勤勉と熱心を以てこれに從事せしも目的は半途にして烏有に歸し彷徨身を寄するに處なく交際試補となり小說家となりて驥足を展るを得ず社會は不親切にもかゝる有爲の人をして空しく落膽の況遇に埋めしめて觀みざるにあらずや男子すらかく志を得ずして苦む世の中に孱弱女子の力と其學識を恃んで自家獨立の業を營んとするは大早計と言ざるを得ざるなり退て社會のなり行を洞察して適當なる婦人の地位を作るにしかずそれ琴は無絃に到りては聽者稀なり人心何となく富を爲し衣食を足すといふ一端に傾きたる今日には文學の優美と聲律の麗調も衆多の耳目を喜すに足らず高等教育も其實無絃の如く誰か耳を傾くるものあらんや識者幸に意をこゝに注ぎ女子をして職業を學ばしむるに怠ることなかれ世に万金を費して女子の爲めに嫁時裝を作るものあれど嫁後の支度を十分に爲すものなし花咲く春の快樂は夢の如く過ぎ去りて美麗は一葉二葉と零ゆく秋になりもせば戀も情もうらかれて女は男子の輕蔑を受け男は女子を奴隸視して腦に燃く火の消る間なく風になびける烟にむせびその日〳〵を送るありこの時こそ獨立の志なくてはかのふまじ高等教育も何かせん裁縫洗濯糸取賤が業も奏樂唱歌舞蹈にまさることとなりなん富貴浮雲の定めなき世の中には貴きも貴きにあらず賤しきも賤しきにあらず覺れば同じ蝴蝶の夢これかれと是非をも判ちがたかるべし婦人にして生涯の幸福を全ふせんと欲せば手には職業あり胸には無限の愛ありて男子をして苟も離るゝに忍ざるの念を起さしむるとなり假令良人の家不幸にして衰頽するも其困難に處するの英氣と技倆を持して夫妻力を協せて一家の經濟を維持するに堪るものなれば何ぞ世途の難處に蹈迷ひ他人の膝下に匍匐流涕し義損金の餘澤に生活し再び人の厄介者と爲るの患あらんやよしや

他人は嘲笑するも前途の利害得失を計り適當なる職業を學ぶに怠ることなかれ男女相親睦して離るゝ事なきは他なし妻は夫の難艱を負ひ夫は妻の辛酸を嘗むるにあり妻たるもの其力に應じて夫の經濟を補ひ夫の事業を助けて敢て或は怠ることなくば夫たるもの焉ぞ優遊逸樂して妻を顧みざるものあらんや女子の品位を高め無氣力の弊を匡正せんには職業を學んで自立の志を養ふに若くものなかるべし。



小說

マイルス、スタンヂッシユの患

第六回（下）　愛山逸民

アルデンは默然たり恍然たり、たゞプリスキラの說くところを聞てしげ〳〵彼女の顏をながむるのみ、アルデン心に思けるは未だ彼女の斯くうるはしかりしを見しとなく、未だ彼女の艶色の斯く神なるとを見しとなかりきと、かの昨日まで流暢に他人の爲めに說たりし彼もタドヽツヽ立ちて如何答へばやともだゆるのみ、處女はアルデンをして卑怯あらしめ、言なからしめたる彼の心中の機關をば知らぬさまして猶語りつゞけり、"されば我々をして我々が有まゝにあらしめよ、我々の思ふところを話さしめよ、萬てのとにつき我々をして眞理及び友誼の神聖なる告白に忠義ならしめよ、妾が御身に語るとは秘密に非ず、又妾は之を御身に告るとを耻ざるなり、妾は長へに御身と共に住み、恒に御身を見、御身と語らんとを望めり、されば妾は御身の言語に害せられたり、朋友マイルス、スタンヂッシユの爲なりとも、御身が朋友と婚禮せんとを妾に強

むる御身の言語を聞しとき妾は些かいきどほれり、妾は御身に眞を明かさねばならぬなり、尉官が妾に與ふべき全量の愛よりも、又尉官が御身の考へしより二倍の英雄なるも、妾は御身の友誼の方更に有難思なり"と、かく言ひて彼女は其手をのばせり、アルデンは熱心に之を捉めり、彼の心臓をいたくなやませたりしすべての傷痍は、彼女の手に觸るゝと共にいやされぬ、扨彼は感情にみちたる音聲もて言り、"然り我々は長へに朋友たらざるべからず、御身が交れるすべての人の中にて我身をば最も信實なるもの、最も近きもの、最も親愛なるものにてあらしめよ"と

遠く隔たりたれども猶見得べくして漸く地平の下に沈まんとする「五月花」の光れる去帆に告別の眺を投げつゝ衆人去り盡し彼等のみ獨り原頭に殘されたるとのあやしき言現し難き感情を將ちて家路をさして彼等は歩めり。然れども彼等が日影の祝福と微笑との間に田野を過しとき、彼等の心は漸く輕快になりてプリスキラは說き出せり、"今や恐べき尉官は印度人追討の爲めに行けり、其處に彼は家を治むるよりは遙かに幸にておはすべし、御身は遠慮なく話し得べし、御身が昨夜家に還り妾が無禮でありし由を語りしとき御身等の間に起りし萬の事を妾に語り玉へや"」とジョン、アルデンは答へり全き話を彼女に話せり自己の失望とマイルス、スタンヂッシユの激怒とを語れり、處女は打笑めり、笑と熱心との間に曰り、"彼は小さき煙筒なるかな瞬時にあつくなるとよ"と、アルデンは穩かに彼女を誡しめて自ら如何計り困みしかを語れり、「五月花」にて歸國を決せしが彼女の爲めに止りし由を語れり、此危險なる話を聞きて彼女の態度は變れり、ドモレル調子にて彼女は曰へり「誠に妾は御身に此事を謝す、御身は常に能く妾を遇し玉ふものかな」と。

かくてエルサレムに旅する信心深き巡禮の如くに此淸教徒の少年は其住へる聖地に向て旅せり、三歩進みては一歩退き、切なる情願に奨されて、後悔の痛恨に止められて、徐々として進み行けり、戀の愛着に因りて奨されて、過失の悔恨に因りて止められて。

マルチンセン曰く、客を愛し旅人を懇切に饗し親切に行爲ひ出來得る限り家を開きて之を受け容るべし、是の如くせば天使を饗應するものやあらん、天の使豈に人間以外のものに限らん、凡そ神より遣はされ、高尙深遠なる思想、正義凛々たる志氣を懐きて、吾等の家に來らんものは、みな天使なり、其談笑應對擧作進退の感化は、無量の祝福を齎らし來るものにあらずや。

紫海の嵐

みさを

第十回（完結）

大村の國主義鎭夙に聖敎を是認せるに夫人がいたく之を嫌ひ如何にもして聖敎徒を滅さんとて常に惡しき計謀をめぐらすにぞ、こたびの事義鎭の怒を招きぬと聞きて臼杵の領主義親はいと心に恐れ、聖敎徒に對するさま舊時の如くなりぬ、只戰々競々國主の譴責なからんことを希ふのみ。其謹愼めるをきゝ、義鎭も其罪を問はで過ぎぬ。

さても親虎は先きにのべしごとく、やんごとなき身となれるものを、憐れや聖敎を奉ずる爲めいたく責められ、いぶせき小屋に住みなして僅かに雨露を凌ぎ、膚に沿ふる衣は破れて僅かに寒さを防ぐのみなりき、斯くて過ぎしも幾月日、身も衰ふる程となりぬ、されど聖敎を奉ずるの心いよ〳〵堅くなりぬ、國主の次子親家が同じ敎の友なりとて深き交はりを契り、情けをもて大村城に呼び入れ給ひしかば辛く迫害を逃れけり、さらずば遂に命も危うかるべかりしに。

國主の是とする所、人之に背く可からず、心には聖敎を惡む人も言にあらはし、行に出すことはあらず、されば國中の人民皆堵に安じ、世は干戈を動かし、兵を交へて亂るゝ內に、大友家の領內のみは靜かに治りぬ。されど亂るは治るの兆、治るは亂れんとするの前なり、耳目遠く見聞せずと雖も禍害を未然に防ぐこそ賢將明主のなす所なれ。義鎭公はもとより稀有の明君、かゝる事に疎からず、親虎と親家を近くに呼びこたびは聖敎徒の受くべき禍も難なく終へぬ、是より後また如何なる事起るべきか、汝等今日に謹まずんば汝等の身の危かるべきのみか、聖敎徒皆禍を蒙らん、我汝等に許すとて心に驕り、人に嫌はるゝ擧動あるべからず、聖敎を奉ずるはもとより不可なけれど我國古來の風習あり、之といたく異る行ゐありては民の心にも背くべし、萬づの事心すべきにこそと懇ろに諭し、信徒にも同じ心にて告げ聞かせぬ。

ハヤ後日の憂ひもなしとや思はれけん、長子義統年長じ、政務を司るに足ればとて義鎭公は大村城を遠く離る地、いと閑靜なる所に退き、風雲に思をやり、花月に心を移して、餘年を樂しく送らばやと心に定めぬ。

義親既に謹愼を表しければ。親虎を復歸せしめ、再び之を苦しむる事なからん樣義鎭公より篤と諭し置きぬ。こたび閑地

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

に退くに當り、其一女を親虎に妻はさんとせり、さるに此時國主の夫人病愈えたる後なれば亦義親と謀り、親虎が聖教を奉ずるの故をもて亦も婚儀を許さずと云へり、義鎮いたく怒り、夫人の頑冥遂に捨て置き難しとて城外に放逐し、親虎に婚姻を結ばしめ、後の禍なからん爲め之をカブラル大師に遣托し、身は退陰せり。

強きは弱きを滅し、大なるは小を併する戰國の習ひ、眼を鋭くし、戈を尖して機を待ち、他の領地を奪はんとするもの多く、恰も飢えたる獅子の諸方に割據するに似たり、日向の國主伊東公の夫人は義鎮公の子あれば大友伊東の兩國主は只ならぬ親近なり、義鎮公退隱するに先だち、日向の國主病の爲に死せり、遺子二人長子僅かに十歲、政務を取べからず、加ふに良宰のあるなく人心漸く動かんとせり、折こそよけれと攻め入りしは薩摩の國主島津氏なり、日向の國は既に島津の手に歸すべかりしに大友公は忽ち六万の兵を擧げ、島津を伐ち退け、日向を救ひぬ。時に一方の大將は親家にて他は親虎なりき、兩將敵軍を攻むる功めざましかりし中に取別け親虎の戰功天晴なりとて稱贊せぬものなかりき。親虎天性才能に富み、文事に長じ且つ剛勇人に勝り武道の妙技を盡しぬ。文武兼ね備はるの良將とは斯る人ならん、義鎮の明智疾く之を知りければ心深く鍾愛せしにこの戰功ありてより殊に愛で玉ふ事一方ならず。

義鎮公退隱の後國中愈安かに治りぬ、義統公もおさ〳〵父に劣らぬ明君なれば常に聖教徒を保護し、傳教師を優待せり、且宮中に信徒を入れて自ら教を聽き、宮中の人々にも聽かしめぬ、されば洗禮の式に預り、信徒たらんとするもの日に月に多きを加へぬ、始の程は佛徒之を惡み、奸計百出至らざる所なかりしも愈計りて愈拙なく、國主の嚴罰により遂に斯る事を思ひ絶ちぬ、されば國中泰平の歌を謳ひ、民君恩を讃ゆるに至りぬ。

* * * * *

憤激すれば窮鼠もよく猫を嚙む、弱卒も尚勇氣を倍す、况して久しく勇を養ひ、兵を集めて打出づるに於てをや、薩摩の國主島津氏は先きに日向を横領せんとせしに圖らずも大友家の妨ぐる所となり、意を果さで歸國せしのみならず、淺からぬ恥辱を受けぬ、されば日夜鬱憤禁ずる能はず、臣下をして

日に三度天に矢を放たしめ、怨恨を覺え敵を惡みし如く、薪に伏し、膽を嘗めて仇を報ぜんとせしに異ならず、一時も敵を忘るゝひまなく軍備を整へぬ。豊後の國治平極まり上下萬民心を安んずるを見て兵を出して豊後の境に押寄せぬ、不意の事とて豊後の國主は大に驚き、忽ち四方の兵を募り、義親をして三軍を率ひ以て敵の侵入を防がしめぬ。

豊兵急に薩軍を衝き、大に之を敗る、薩兵守る能はず、攻取せし所を捨てゝ退く、豊兵勢に乘じ、進で三壘を抜き、尚一砦を餘す、敵此處に據て死守す、義親思らく薩兵大軍なりと雖も一擧して三壘を奪ひぬ、餘は取り易きのみと、即ち備を怠り、心を緩くす、戰勝て兵驕るものは必らず敗る、之を知らずして備をなさず、豊兵今や風前の燈、かげろうの命、消ゆ事を待つも暫しのみ、墓なきことの限りにこそ。

薩兵は大將を始め一軍憤激甚しく、先きに一敗耻辱を殘して退陣し、二たび敗ればなほ何の面目ありて歸るべき、皆戈を枕にし鎧をしきて戰野に骨を暴らすも、耻を殘さざるに如かずと、皆心を併せて戰はんと覺悟せり。

一夜雨風烈しく敵味方の篝火も消えはて、黒白も分かぬ暗となり、薩軍の將竊かに號令を傳へ、六万の兵を二に分ち、一は追手となし、他を搦手となす、中夜雨愈烈しく風ふきまさる、薩の二隊合圖の時を定め暗を犯して責め寄する、豊兵斯くとも知らず、連日の戰に疲れはて、陣中に入亂れて打伏しぬ、薩兵枚を含み、馬の歩みを靜かになし、將に豊兵に近かんとす、時に東天漸く明けんとし、夜の雨は朝の霧と立かはり、咫尺も辨せず、斥候の往來織るが如し、時に聞く、兵馬のもの音、鼙鼓のひゞき、豊兵不意を打たれ、取るものも取りあへず、鎧冑をも着けず、馬に鞍をも置かで打出るもの多し、義親、親虎はさすがに不敵の大將なり、周章狼狽せず、靜かに裝飾を整へ、陣屋を出で、馬上より號令を傳へ、先づ敵の前軍を衝く、前軍退けば後軍打寄す、豊兵腹背に敵を受けゝれば大將を始め全兵死を決し、前に當り後に打ち、右に拂ひ、左に攻め、猛撃突戰猛虎の怒れるが如く、縱横無碍に攻り立つれども雲霞の如く打ち寄する薩の大兵何かは以つて防ぎ得べき、見る／＼豊兵討死し、只見る屍山血河、親虎は殘兵數十騎を從がへ、敵の軍中に躍り入り、勇進奮戰敵を切り靡けぬ、誠に當千の勇者よと敵兵恐れ退ぞきぬ。此時義親

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

は更に敵軍に侵入し、力を盡し、刄を閃して許多の敵を討ちしが限りなきの力、盡せぬ敵に堪へず、身に深創を負て、鮮血全身に沾ひ、勇氣も衰へぬ。親虎追ひ求めて父に遇ひ、父上落ち給へ、某敵を防がんと云いつゝ敵兵を切立つる。義親亦前後無盡に切入りぬ。親虎暫くにして觀れば父既に敵に討たれぬ、はや是迄なりと、父に近かんとす、忽ち馬仆る。立んとして能はず、匍匐して僅かに父の屍に達し、自ら貫て死せり。今や豐兵殘るなし、戰野を蔽ふ薩兵凱旋の聲。天に充つ悲風慘雲。

豐後の國主滅びて領地島津氏に歸す、是より聖敎を目して邪敎とす、中國にて織田公の滅るあり、東西亦聖敎を保護するもの絕ゆ、戰亂年に起り、邪敎禁制の事漸く盛なり、惜むべし、芳花僅かに開き、慘風刻雨之を打しことを。（完）

附言　本篇前後珍奇の談多し、誠に是歷史小說の好材料未だ此を以て結ぶは名殘惜し、されど徒に長くせんも讀者の倦厭を招かん、他日機を得ば更らに本篇を續ぐべし。

篇首にて臼杵を豐前とせしは豐後の誤植なり、亦全篇臼杵の城主を義親とせしは親方と正す、途中にて心づきしがそのまゝ書きつぎぬ、依て此に正す、其他誤植少なからざりしが一々此に正す能はず、讀者察せよ。

批評

○新敎三書

濂泉子

案頭に三つの書あり、通讀して之を比較し、慨する所ろ少なかしとせず。

第一は、金森通倫君の著、日本現今之基督敎並に將來之基督敎なりとす。未だ出でざるに當りては、評判常ならず、そも何如なるものや現わるゝと、吾も人も望奇大方ならざりしが、扨て其の既に生れたる樣躰を見れば、差して變りたる偉人にもあらず、但だ其聲の凄まじき、其音の殺々たる、其調の烈げしきなど、何如にも物に激したるの躰あり。基督敎の門前及び門內を論ずる所ろ、通弊を論破して遺さず、讀者の胸を躍らす。ばいぶるに對する批評に至りては、大躰は固より同意なれど、見解餘りに酷に失すと思はる。基督神性說の一段に至りては、受入れがたき節多し。左れど、今の神學の循環彌縫策を暴露し、其隱居的の安樂椅子を打壞して、大ひに之を追促するの元氣に至りては、深く同情を表す。但だ、通篇の論理之れと云ふ新らしき所を見ず、亦是宛然ユニテリアン、

一九

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ピウを繰返すものに過ぎず。故に、其是非を判ずるは、ユニテリアンを評するに同じ。然れども、「抑そも宗教心なる者は理窟を以て養ふ可らず、教訓のみに依頼す可らず、寧ろ人の感情に訴へて是が敬愛心を發起せしめざる可らず、たとひ高尚なる宗教にても、若し理窟をのみ說ときは其効甚はだ尠し」と云ふに至りては、古人に會へる心地す。基督は固より哲學者に非ず又理學者に非ず、只だカリラヤのナザレに住みし一個の小民たりし故に、彼が其神を信じたるは、哲理上より研究して然るに非らず、寧ろ實際の經驗により其神を直ちに見ることを得たるが故ならん」と云ふに至りては、悚然として其冷やかなるに寒心す。

金森氏と慨する所ろを同ふして、其インスピレーションを異にするを、松村介石君が新著「基督之心」となす。基督に現はれたる、天道と人情との二つに付き、此書は只だ其人情の一部を論ず。故に神を人の如くし、一種の類人說に傾むくの恐れなきにあらねど、今の宗教界が基督の心を心ろとせずして、活けと眞との宗教を俗殺することを慨するに至りては、同感の念に切なり。孟軻云く惻隱の心人皆な是れありと。著者が所謂る基督の心なるもの即はち是れ也。現時の汚濁に對して一杯の洗禮を授け、人をして其の元に歸らしむるの警戒としては、所論甚はだ有力なることを覺ゆ。但だそれ此論法を引延して宗教を論ずるに至りては、種々の難所あるべし。左れど著者本來の志望たる、必らずしも之に掛念するものにあらず。

最後に讀みて、心の靈化し、道念の活き返ることを感ずるは、植村正久田中達兩氏が合譯にかゝる「基督のすがた」ありとす。元書は、名たゝる基督傳記者ゼームス、スタウカルが近著なれば、見る所ろの高潔にして、着眼の鋭利なる、云ふ迄もなけれど、譯者が之に同感同情を表して、意會し筆隨ふの妙地に至らずんば、何を以て此の譯文を得ん。「晩餐の禮は主が客を愛し、人を饗するを好み玉へる最とも著明なる例證なり、其死を表するもの何んぞ餅酒に限れりとせん、然れども其福音は親睦和樂の福音なり、故を以て耶蘇は世終る迄其晩餐の席に主人公となり、其容貌には厚情藹然として鞠すべく、其胸中には寬宏にして吝みなきの氣慨を滿たしめたまふ、其背後の壁間に語あり、曰く此人は罪あるものを受け容れ之と共に食ふ」と、此般の文思所ろ〳〵に充つ。情濃やかに

して思切なるの人にあらずんば、得て此類の研究を爲すと能はず。

第一の文は馬怒つて欄を越え空を蹴るが如し。第二の文は多感多情、世の冷やかなるに胸を打つ詩人の如し。第三の文は無花果の葉茂る木の下かげに、經書をくりかへして、靜謐默禱、信念潮の湧くが如く、跪ずきて感謝する人の歌の聲に似たり。

讀者もし、第一書を讀みて、今の宗敎界の通弊を看破し、第二書によりて、基督の心を知り、而して后ち第三書に至り、妙にして潔ぎよく、幽にして美くしき信仰の堂に達らば、宗敎の一斑を知るに於て、蓋し誤まりなからんとす。

○僞惡醜日本人

三宅雄二郎君が新著にして、曩の著眞善美日本人に對するものとす。今の學者社會の僞、今の美術社會の醜を論ずる所極めて可なり、只だ惡を論ずるに至りて彼の當手にも足らぬ紳商連のみを攻擊し、堂上の惡人、野間の惡黨などを見逃したるは、くれ〴〵も遺り惜し。

笑ひ草

かいつけぬ

ひさご

蚊の聲いぶせきを、扇にうちはらひつゝはしゐして、世のはかなき事ども、かたり合ついでに、一人のいひけらく、この頃世の人のもてはやす鰍（文字不分形は蛙に似たるものなり）てふものゝ聲いとめでたしと聞ど、いかなるにかしらず、といふに、側の一人、げにいかなる聲して鳴くものにかあらん、よく眠ぶるものとは聞しかどとうちかたぶくを、又の一人あな堪ずやと高らかに笑ひて、そは海猫てふものゝ事なり、己れ、知しは長柄川の鵜飼見に行し時なりしが寢覺心ぼそくあはれにて都戀かりきといふ、この時この團居に入來し一人、そはいと心細くおはしけめ痲疹てふ病はふたゝびせぬといふのみを、いさゝかのなぐさめにて、くるしさ堪難きものなりといふ、又さきの人まろび伏しうち笑、たれも、かれも何事をかの給ふらん、もの知ぬにも程あり、といふ、さらばその給ふは何なりや、と問ひ返に、漸く笑をおさめ、襟かい繕ひ、さればあり聲は蛙に似かよひたれど、夜の事なりしかば、其鳥の形よくは見得ざりしと答ぬとぞ、目

を卑しとするは、よの常にてめづらしからねど、をかしかりし物語りを聞かまゝを」

屛風なす谷のがけ道、三ッ二ッしろき蝶のむれ遊ぶを、見て今しも眠りさめぬ、とおぼしき大虎前足を引のばして、一聲高嘯ぶきて、一人ごつやう、おのれほど世の中につよきものはあらじ、人の百千人にもまさりたる力持てども いかにしてか、我仲間の人を取る事少なく、かへりて人にとらるゝ事多きこそ心得ね、といふ、この時かたはらの草の葉末つたひゐつる蟻、うち笑ひて、汝の癡愚なる事さほどゝはしらざりき、強き虎の弱き人に取らるゝはおのが強きをたのむ故なり弱き人の強き虎を取るは我弱きを弱しとしりて我を頼まず黨を催し、衆と和して心を一致にし來るが故なり、我意を立てず、能く衆人に和し自己に威を振はぬものは榮ゆる事天道なり、見ずや楚の項羽は強しといへど、我をたのみて滅亡し漢の高祖は弱しといへど、衆と和して國を得られき、近くは我等耳もなく角もなく爪もなく牙もなく智慧もなく力もなく金もなく勢もなく實に賤しき土ほせりのらちもなき身なれど我意を立ず巳を頼とせぬ故に仲間一統睦ましく和合す、されば、千丈の堤をくづし泰山をも動かすなり、此時の勢力虎も象もかなふべからず、世に我をすてゝ衆人と和する程強きはなく、我を頼みて人に違ふほど弱きはなし、虎聞あへず嘲けりて我が目ほどの形もそなへず、口ひろき事いふものかな、我一度勇を振はゞ汝等如き小虫の幾億萬來るとも一時に片足もてふみころさんと誇りければ、ほどちかき穴よりこの蟻の一家親屬群り出でゝ虎の手足目鼻口耳ともいはず用捨なくひしと取付き重り重りて毛穴毛穴へ喰込ければ、虎息つまりてかなしげに泣て許しね、許しね、今こそは衆と和す者の強きをしりぬとあやまりけると二人心を同じうする其の利こと金をも斷つ、むべなるかなと聞しむかしたがりを。

時事

○會社銀行

瀕々として聞ゆる所ろの商界の醜聞は、近時何事ぞや。之が管理の任を負ひ、幾多の人民に代りて之を取締ると稱する所ろの政府は、何の顏ありて公衆に向ふ。過激なる演說は、演說家の自殺に似たり、何人か之に信聽せん、政府無乃之を寬假

するも可なり。但夫れ彼の老婆が金着より出て、役夫が汗より滴たり、隱居が后生の爲に蓄はへたる血性の金は、政府たるもの務めて信切に其保護に留念せざる可らず。近頃の大恐慌は言ふ迄もなく當路商人の不德より起原す。然れども政府が之に負ふ所ろ亦少小にあらざる也。

○文部省

文部省は其建物に於て諸官省中の尤とも小さきものあり、其官員の尤とも少なきものなり、此は學者風に万事を質素にするゆえにも因るとならんか、必竟は其事務の少きにあり。政費節減の第一として先づ之れを止め、過半を帝國大學に呈し、殘りを宮內省に合しては如何ん。然らば則はち近頃の如き紛紜もあるまじきなり。

○現內閣

現內閣が意外に安固の狀あるは、天下激變を望み、少ばらく翼を收めて雲氣を察するものゝ多きに因る。左れど、民間に一大政黨起り、閣上に眞個の總理大臣現はるゝの日迄は、世はいつも〳〵同じき事を繰り返さんとす。而して此の大勢を持來すものは、經濟上及び敎育上の結果ありとす。貧しきものは到底倒れざるを得ず、愚かなるものは到底從がはざるを得ず。政治家衣食に窮し、少年學に達するの曉きは、則はち大勢猛決の端緒なるべし。明治十四年以后國會開設の時に至る迄で、世の所云る志士なるものに幾代變ありしかを見よ、而して續々長じ來る少年は、日々に新らしき思想を世面に流布せんとす。大ひに世を革めんとするものは、急くことなかれ、先づ此邊の變化に着目安意せずんばある可らず。旬月の變革は寧ろ無きに若かず。

○休課中

各女學校の學期略ぼ畢り、女生諸君多くは父母歡迎の手裏中に向ひ歸らんとす、父母が眼とは、諸子の風采何如に改まりしかを見んとを欲し、父母が耳は、諸子の談論何如に進みしかを聞かんとを欲す。諸子は學校の試驗を畢りたり、之より父母鄕人の試驗を受んとす。諸子は第二の古鄕を去り今や生來第一の古鄕に歸らんとす。學窻は扉を閉ぢ聲を放ちて送れども、門前の楊柳は風に動きて諸子を招かんとす。諸子請ふ心して行け。諸子は現に一校を代表し、女學生を代表して、鄕關の門に入るものなり。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

○民間の先生

濁流を清め、醜風を拂ふの根源なくんば、世は久しからずして沈滯腐敗せんとす。能く其根源となるものは、青年の英氣と、大先生の德風と是なり。先生の德よく青年に及び、青年の勇よく世を動かし、斯の如くして民心を新たにし、社會を倦々せしめざる也。四望するに、今や先生落々として失せ、民間、德望一世の師表となるに足るの大先生極めて少なし。而して之に洗禮を授けられざる、無賴の少年、壯士の名を以て追々に繁殖す、あゝ、世を如何にせん。

○學校

官立の學校は議會の氣息を窺ふて惴々焉たり、上官の交代を虞ばかりて恐々乎たり。私立の學校は經濟の難きによりて七計八策せり、生徒の减員を憂ひて虛飾一と方ならず。斯の如き人よ、何んぞ退ぞきて古しへの私塾に返らざる、教育は人の數にあらず、人の質にあり。

○事業

本來無理の事業、今や自然に返りて顛々落倒す、事業は生物なり、種により漸次に發達せしめずんばある可らず。

問答

可愛子

●問。私は去年父に死別れ、今年又母に死別れ、悲みの餘り氣がホーッとして、何にもするがイヤで、早く死んで仕舞いたいような心持が致します、尤も私は幼小の時、親戚の娘の方へ許婚の婿さなッて居りますが、兄は此際親戚さも〳〵に私の結婚を急ぎますが、ドウしたら宜しう御座いませうか、向ふの娘は私の氣に入りません、悲みの爲めに困まッて居りますのに、又一ッこういふ苦の事が出來て參り、私は殆んど自殺して仕舞ふかさも思ひましたが、自殺は大罪ださいふを女學雜誌で承はり居れば、ソレもならず、進退殆んど谷まッて居ります、どうか良いお考へがあらば、教へを願ひます(青山田夫)。●答。ソレは嘸お困まりで御座いませう、結婚の事に就ては何さも申上る事は出來ません、アナタの御信仰に任せます、尤も女學雜誌第百九十五號の雜錄、及び二百五十號、二百五十五號、二百六十二號、二百六十四號の隨感などは參考の爲め御覽なさるも宜しう御座います、又眞理一斑、來世論などお讀みなされ、ソシテ新約聖書をお調べなさるならば、アナタが御兩親にお別れなさつた悲さ苦は次第に輕くなる事さ信じます、事情御推案申して胸一ぱいになり、はか〴〵しくお答へが出來ません。

●問。第三回夏期學校は、往復旅費を除いて、凡そ何程ばかり要しますか、又招聘さるゝ講師は誰々ですか(津、愛眞生)。●答。校費二十錢、寄宿費一日分十七錢です、校長は小崎弘道氏、講師はマダ知れませんが、近時有名の人々です。

●問。文章の評に擒縱自在などいふとがありますが、アレはどういふ譯ですか(甲斐、愛流生)。●答。筆の先で擒にするも、縱すも、自由であるさいふとです、文に此語を用ふるようになッた其原は、支那三國の世に、諸葛孔明が南蠻を征伐して、國王孟獲を七たび擒にして七たび縱したさいふ事から起ッたのです、されば人物論などを書いて、或は褒め、或は貶し、議論巧みに變化するをば、漢學先生は評して擒縱自在など、申すのです、即ち其筆先き、孔明が孟獲を七縱七擒したやうに、他を擒縱するとの自在であるを褒めるのでせう。

女報

可愛子編

●皇后陛下の行啓　皇后陛下は去る廿二日午後二時御出門、青山御所へ行啓あらせられたり。

●芝離宮御滯在　又同陛下は去る廿五日午後二時御出門、芝離宮へ行啓、同所に於て凡そ三週間御滯在、御保養の爲め。

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

●農業雜誌御買上　皇太后宮陛下が畏くも夙に大御心を稼穡の業に注がせ給ふとは遙かに承り及ぶ所なるが、麻布學農社にて發行する農業雜誌は、是迄始終御所へ御買上げ相成居たれど、間々欠失したるもありしを以て、此程博物館長山高信離氏へ、同雜誌初號より殘らず備へよとの御下命ありたれば、同氏より其旨麻布の同社へ達し、同社にては明治九年發行の第壹號より取揃へ、一ヶ年分ヅヽ特別製本に仕立て、此頃納附したる由、實に農業雜誌の名譽にこそ。

●ヲアデル氏の歸國　東京府高等女學校の雇教員なる英國人ヲアデル氏は、同校創立の時より英語の教授を擔任し、頗る親切懇到なるを以て生徒の人望一方ならざりしが、氏は今回病痾の爲め一先づ歸國するに付、生徒一同より紀念の爲め、雛人形並に同諸道具一組を贈りし由。

●串田しげ子　米國留學中なりける串田しげ女史は、此度び父の病により歸省ありぬ。父の病癒たりと云へど、當分は此地に留まらるゝよし。

●淸水とよ子　亦た父の病により西京へ歸省中なれど、其病未だ治まらず、而も甚はだ危ふければ目下尙ほ滯留看病中。

●廣瀨つれ子　亦た母の病氣にて、歸省看護せらる。

●田邊たつ子　花圃女史は是迄も女學雜誌に執筆せられたるが今后は一層多く之に從事し毎號得意の文章を物して揭げらるゝ筈なり。

●車の徹　「文壇」の第七號に世の批評家に質すと云ふ冬のや氏の文評あり。蓋し、これ指環が世に喝采せられたる割に、車の徹の甚と靜かに過せられたるを大ひに慨するものなり。車の徹は女學雜誌の附錄となりて世に出で、實は花圃女史が作にてありける。

●婦人矯風雜誌　は本月にて既に三十八號に達せしが、前編輯委員竹尾こと女史地方へ轉住に付、竹越與三郎氏夫人竹代女史代りて擔當あり、紙面も幾分か改まりたり、本號には矯風の事業に二面あるよしの論說見ゆ。

●一夫一婦の建白　を出さんとて、婦人矯風會風俗部にては、部長はじめ皆々盡力中なり。

●婦人矯風會慈善部　にては四月十三日、中村國子氏を部長に撰擧せり。

●安生堂產院慈善會　安生堂產院入院者の施費に充つる爲め同院生徒の催しにて、去る二十、二十一の兩日兩國中村樓に慈善會を開きぬ、頗る盛會なりしと云ふ。

●大日本教育會の夏季講習會　同教育會にては尋常師範學校及高等女學校の教員並に該教員志願者、其他左の學科硏究志望者の爲め本年夏季休業に際し（八月一日より同三十一日迄）講習會を開く。

●明治女學校々資義捐音樂會の景况　去る二十日三時より帝國ホテルに於て、同會は開きぬ、吾人は自ら記せざるべし、たゞ府下新聞の報する所を摘記せん。此日入梅の日和靜とて朝よりボツ／＼と降雨ありしに拘はらず我れ勝にと詰めかけたる聽衆二千名もありやしけん舞踏室に溢れ室外に滿ち一時は裏手の庭までも塞がりぬ（東京日々新聞）倒入場を謝絶したるもの頗る多かりし由なり（讀賣新聞）嶋田三郎氏の演說拍手沸くが如く內外の貴女が奏樂は喝采室も破るゝ斗りなりき（東京日々）幽玄の音、嚠喨の聲、雲停り塵躍る（東京新報）殊に同校生徒の長刀は眼先變て一入面白かりし（東京日々）繊弱なる妙齢婦人にも似合はず其動作の勇壯にして其手の中の美事なる有髯男子をして尙ほ舌を捲かしむる程なりし（讀賣）內外の貴女紳士危うさをも打ち忘れて首さしのべ嘆賞の聲絕ゆる時なかりしとぞ（東京日々）兼て軍審杯にては何とかの長袖に襷をかけ大薙刀を車輪の如くふり廻はすと讀み居たれども目擊したるは今回を以て始となす國民記者特筆して曰く明治女學校生徒大に薙刀を日本東京帝國ホテルに鬪はす（國民新聞、附點は原文の儘）。

●獨立學校　廿六日午后二時より閉校式あり。

●靑山女學校　は去十九日の夜音樂會を催ふし、且つ島田三郎氏の演說ありき。

●フェリス女學校　去十九日の夜英語の閉校式ありぬ、本年より卒業式を二つに分け、英語のみと邦語のみとするゝよし。此夜は英語のみにて、唱歌、演說、朗讀等ありぬ。歌は、トーイ、シムホニー特に珍らしく、朗讀は片山義江女史が、「西洋日本勳爵士の比較」一きわ面白かりき。

●山手公會堂の舞踏　去る二十一日横濱在留の英國紳士及貴女は、同所へ會し假裝舞踏會を催したり。

●女賊石田しづ實名佐藤こう　は東京裁判所に於て重禁錮五ヶ月に處し、監視十ヶ月に附せられたり、遠藤秀景氏と關係云々の事は僞りなりとて遠藤氏は辯寃書を新聞紙に投ぜり。

●渡邊はる子　千葉縣千葉町なる同氏は、非常の盡力にて東京矯風會の支部を立て、殊に貧民教育に盡力せられ居るが、過日來四方の有志に義捐金を募集し、一層事業の擴張を計る由。

●村雲尼公靑森に赴く　六月二十一日京都瑞龍寺の村雲尼公靑森に赴く、同市中は賑へり。

●南しづ子氏の寄附金　岩手縣下の婦人矯風會員南しづ子氏は、此程金五圓を同會に寄附せり。

●名古屋金城女學校　は追々隆盛に赴き、今回校舍を增築せり。

●村會にて遊女放逐の決議　越後刈羽郡鯖石鄕は兩三年前より風俗漸やく壞頽し、人情浮薄に流れて往々放蕩無賴の徒も出でしが、是れ時々柏崎より遊女の入込みて、追々浮れ男の增加するによるとて、同郡廣田村會にては、此程遊女放逐の議決を爲し其放逐の手配は、巡査派遣所へ依賴しにりと。

●茨城縣下女子教育の有樣　前中學校々長渡瀨寅二郎氏が、其夫人と共に女子教育奬勵の種を當地に蒔き、稍や萌芽の見へしが、同氏の去ると共に其勢益々衰頽せり、女子職工學校卒業生某が之を慨きて、或る會を設け奔走せしが、一人も贊

●本日午後二時より牛込拂方町牛込教會にて東京禁酒演說會を開く辨士は米國哲學士根本正氏幷に米人ソーパー氏。

成するものなくして成り立たずして止みぬと、遺憾無上。

●滋賀縣下各種の女子卒業數　は高等小學に於て二十四名、尋常小學に於て七百五十二名、簡易小學に於て二百九十八名、淡海女學校に於て十二名、これ昨年中の總數なり、而して學齡女子の就學比例は百人に付三十五人五分なりといふ。

●江州彦根の花街　袋町に遊ぶもの客月中に二千十三人（此消費金二千二百六十五圓餘）にして、同地の戸數三千五百戸に比例するときは三分の二は一ヶ月に一度又同地を踏むことゝなるなり、甚しといふべし、又同街の女紅塲といふには、師範卒業生竹内とみ女といふを聘して諸事を教授するも、しみ〴〵勉強するものもなく到底無益なりといふ、當地にも早く廢娼の風の吹來らんとを願ふと通信者は云へり。

●近江婦人慈善會　は縣下各地に支部會を有し、會員も可也に出來しも、近來追々減少の傾あるを憂ひ、支部長（各郡長若くは郡吏）は各村長に就き會員募集のとを依賴したるより、昨今追々入會を申込むものあるに至れる支部もありといふ、而して本會は毎月第三土曜日を以て、講師を聘して法話を聞き、支部會にも時々かくの如き集會を爲せり。

●越前の敦賀港　には未だ矯風、禁酒、婦人會、女學校の如きもの一つもあらずといふ、されば上等社會にて、東京西京に遊學するもの僅に三四名、婦人の職業としては竹履を作り、繩をない莚を編む等にしてかゝる婦人の數人口の半を過ぎ、且其品々は北海輸出の最大なるものなり、又魚賣、靑物賣、土方、人足、車の後おし、蠟燭の心卷等をなして自活する婦人多し、　珠物魚賣靑物賣は婦人の事業にして、男子之をなすものならずとせり。

●函館婦人矯風會は　引續き雜賀あさ子氏會頭の任を負ひ、毎月一回集會を開き、談話、演說等をなせり。

●函館婦人慈善會　は岡田ゑつ、高見きよ二氏主唱者となり、創設せしものにして、毎週金曜日會員集會し、裁縫の練習及び有益の談話をなし、而して各自應分の金を集め積立置きて不幸憫然の者を救助す。

●函館美以教會の日曜學校　はワイヤ氏夫人、遺愛女學校女教師並に生徒、專ら盡力教授す。

●日本刀を振ふて暴徒を防ぐ　此程支那暴動の無錫を襲ふや、稅關官吏グリーン氏の夫人は、日本刀を振ふて門前に立ち、雲霞の如き暴徒を防禦し、四人を斬り仆したれば、暴徒は少しく辟易したれど、衆寡固より敵し難く、殊に女の弱手ゆへ端なく暴徒に攻め立てられ遂に命を殞したりと、憐むべし此勇婦。

●露國皇后陛下の氣絕　露都より倫敦に達したる報に據れば、露國皇太子殿下御遭難の飛報、露都に達するや否や、皇后陛下は御心配の餘り氣絕せられ、暫くして御回復あり、平生鍾愛し給ふ太子殿下は既に暗殺せられたれども、態と事實を皇后に告げざる事ならんと信じ給ひて、眞の模樣を語らん事を所望せられたりと云ふ者ありと。

●朝鮮故大王妃の年祭　去月廿四日は朝鮮國故大王妃貞王后の一周年祭に相當せるを以て、同日は王宮に於て錬祀と稱し、祭典を執行し、人民の除服を達したるに依り、其翌日より一般人民は白笠を脱し黒笠を冠し、各自適宜に華服を着用せり、尤も國王は三年祭を終る迄、尚依然喪服を着用する由。

●朝鮮大院君回婚之賀　大院君は年十二歲の時、十一歲の夫人と結婚せられし由なるが、當年は年七十三、夫人は七十二の御高齡なるに、何れも御壯健にして去る陰曆四月廿二日は、六十一の還甲後其の初め婚姻せられし日柄に當たるを以て、回婚と稱して初婚よりも尙盛なる賀式ありたる由なり。

●朝鮮京城在留の日本婦人　は二百十一人なりといふ。

●英國女皇の踐祚日　六月二十日は英國女皇ヴヰクトリア陛下踐祚日に相當せしを以て、英國公使館及び橫濱碇泊の英國軍艦は祝宴を開きたり。

●婦人の牧師　北米合衆國新教諸派中にて、按手禮を受けて教會を牧する婦人百六十三名ありといふ。

●婦人の驚くべき長壽者　米國の新聞は記して曰く、米國にて最も年長なる婦人の傳道者はラヂア、セキス夫人なり、紀元一千七百九十九年に生れ、今日尚米國西方の諸州にて傳道に從事す、夫の自ら豫告する所に依れば、多分は一千九百年まで壽命を保つならんと、さらば同夫人の生涯は三世紀間に亘るといふべし、夫人の記臆力は非常に强く、眼力毫も衰へず、音勢亦淸朗にして調子よし、夫人は會衆に向て聖歌を朗吟するを無上の快樂とせり。

●布哇國に於ける日本婦女の職業　は保姆家婢の類、及び裁縫洗濯等を重しとす、家婢の給金は、一週間最高の者五弗、最低の者二弗なりといふ。

●墨其西哥に於ては婦人が　肩掛を頭上に蒙むるを流行せり。

●自殺の原因　は種々なる中、歐洲の北部にては酒精の爲め、南部にては戀愛の痛恨、嫉妬、慘害の爲め、中部にては刑罰の恥辱恐懼の爲めなるもの多しと。

●パーネル氏とオーシヤ夫人の結婚　昨年英國の離婚裁判所に於て、オーシヤ夫人が愛蘭自治黨の領袖パーネル氏と姦通したりと判定せられし以來英國のみならず全世界にまで轟きたるパーネル氏の名聲は頓に衰へ、數年來相提携して運動したるグラッドストン派は氏との關係を絕ち、且つ多年間氏に心服したる自治黨員の過半さへも氏の旗下を脱するに至りたれども、氏は少しも屈する模樣なく、殘兵を率ゐて孤城を守るの計をなし、オーシヤ夫人との關係はます〳〵親密なるが如く、遠からずして結婚するならんとの噂ありしが、本月一日愛蘭の新聞紙のナショナル、プレッスの記す所に據れば、パーネル氏とオーシヤ夫人の結婚式は次の週間に行はるべしと云へり。

週報

●官令　十六日勅令を以て日本帝國領事規則中改正の件を裁可公布せらる●廿二日海外諸港より來る船舶に對し檢疫の件を裁可公布せらる●同日官有森林原野及產物特別處分規則中追加の件を裁可公布せらる。

●政治　二十一日彌生舘に自由黨政談演說會あり、中止解散、壯士亂暴。

品名	六月廿五日
白米(一円ニ付) 一等米	一斗〇升〇合
二等米	一〇二
三等米	一〇七
四等米	一一一
五等米	一一七
正米(一円ニ付) 越中米	一斗四升九合
越後米	一四八
尾張米	一四五
美濃米	一四三
一志米	一四〇
雜穀(一円ニ付) 本貫大麥	三斗二升五合
上州小麥	一六五
竹林麥	一九五
梅澤大豆	二一〇
青柳大豆	一九五
吟小豆	一四八
黒胡麻	一五〇
白胡麻	一三〇
鹽(一円ニ付) 赤穂	三斗六〇
大撫	三七〇
本齋	五八〇
新齋	六三〇
醤油(一円ニ付) 最上	七九 八七
極上	八九 一、一五
上物	一、三五 一、六五
中物	一、八五 二、一〇
並物	二、二〇 二、五〇
味噌(一円ニ付) 地製上白	七貫、〇〇〇
同上赤	七、〇〇〇
同紅赤	五、〇〇〇

品名	六月廿五日
木綿夏織物(一反ニ付) 伊勢改良縞	五六錢 七〇
同糸入縞	九二 一、一〇
佐織鼠縞	三七 五六
同糸入縞	五八 六五
生機鼠縞	三二 三五
同糸入縞	三〇 四三
玉井正紺絣	八〇 九〇
佐々絣	一、二五 一、四〇
物産縞	四六 七三
糸入愛國縞	七〇 一、〇六
蜀甲絞	七五 八五
養老絞	三八 六八
大和正紺絣	五〇 五六
同白絣	三八 六[illegible]
結城地	六〇 八三
白木綿(一円ニ付) 玉鶴	反 三、四五
綾鶴	三、七五
日ノ出鶴	四、〇五
若柳	三、二〇
稻岡	三、四〇
見玉	三、七〇
蓬萊	三、八五
古新	三、二五
間銘	三、八〇
夏織物(一反ニ付) 都華織	円 五、一〇 七、二〇
壁上布	四、二〇 六、〇〇
明石縮	四、九〇 六、七〇
加茂川縮	四、七〇 六、二〇
平上布並敷寄屋	三、七〇 五、七〇
濵縮緬夏友仙	六、四〇 九、四〇
絽上	四、〇〇 四、七〇
同並	二、六〇 三、五〇
夏御召	六、二〇 九、七〇

品名	六月廿五日
製茶(一貫目ニ付) 山城江州稀大頭	円 二、七五
同大頭	二、一〇
同中頭	一、七〇
同中茶	一、三〇
狭山稀大頭	二、〇〇
同稀頭	一、六〇
同大頭	一、二五
同中頭	一、〇八
同中茶	八五
鰹節(十貫目ニ付) 薩摩大	円 一六、〇〇
城の腰上	一七、五〇
遠州上	一七、〇〇
水戸磐城	一〇、三〇
銚子節	一〇、五〇
南部仙臺	九、五〇
土佐大	一〇、五〇
素麺(一箱ニ付) 長素麺上	錢 七二
同中	六七
同下	五五
切素麺上	八五
折素麺上	三五
水油(一樽ニ付) 地水	円 六、七〇
胡麻	九、〇〇
荏油	九、五〇
桐油	六、六〇
綿油	……
坂水	七、八五
石油(一箱ニ付) チヤスター	円 一、六六
デボース	一、六五
ホーキ	一、六八
ロシヤ	一、六一

面接日

木曜日后
午后至夕

巖本善治

再開業

下谷西黒門町

(女醫) **荻野ぎん子**

特に女學生諸君の爲に別室を準備し且つ特待治療す。

外神田松永町 **渡邊泰**

專門

梅毒 痔疾 子宮 痳疾

右四科ハ院長が前の大學東校梅毒院勤務中只管該患者に施療したる處にして速に全治受合なり若し全治せざれバ藥價返却す●但し診察無料

京橋銀座二丁目東仲通 畑中堂

山本醫院

●縮毛直一箱三十錢●

●白毛即座染一箱二十錢●

百歳の美少年

滿天下の好評を得たる神田帝國堂の白髮染並にちゞれけ直し等は其効の著しき事は皆様も既に御承知の事なるが今般弊堂に於て諸君の御便利を謀り該妙藥を以て白毛染ちゞれ毛直しの依賴に應ぜんとす希くは御入來の上御ためしあらんことを

(注意)該染法に從來有ふれの十二時間手拭かぶりむす等手數なく(油氣のあるも妨なし)二十分間にて美事に染り一生はげぬ請合の妙法あり万一無効なれば代金返戻の上相當の謝金を呈す

●御入來の暇なき人に限りはがきにて申込候へは直に罷出染直し可仕候

東京下谷仲御徒町三丁目四十三番地

大販賣所 染所 **帝國堂村上**

●新染粉ゝ一箱六錢●

●キヘー水一瓶十錢●

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

英語女生徒募集

各科共夏期試驗終教科書ノ改撰且暑中休暇廢七月一日以降女學ノ別科ヲ設ク午後五時至六時特ニ教授月謝ハ五拾錢但教師日本語ニ通ル純粹ノ英國婦人ナリ

築地三十三番　**歐文正鵠學館**

商標

●**專賣特許**　實效確證　**かやり香**　定價小二錢中五錢大十錢　蚊やいらず

此香は從世にありふれの品とは事かはり今般農商務省にて特許の榮を賜れり依て世の賞賛を得んが爲其効能の大略を述ぶれば此一片を火にて燻さば忽ち室内の蚊は勿論近邊に群る蚊及び室内蠅蚤の如きも退治し其馨は愛すべくして人躰には決して害なし且つ夏の日の業務對話等の時に團扇の必要なし安眠するに蚊帳入らず殊に料理屋待合茶屋旅宿屋諸集會所遊所等に備へ置かば至極便利品あり

製造發賣　**本舖**　東京日本橋區吳服町一番地　**薰風堂**

特約發賣●東京芝區芝口一丁目五番地清風堂

新版書籍大賣捌
（女學雜誌社）

●金森通倫君著
日本現今之基督教　並に　**將來之基督教**　定價二十錢郵稅四錢　一冊百六十頁

●木村駿吉君著
女學校用　**新編小物理學**　上製價六十五錢郵稅六錢　並製同五十錢郵稅四錢

右二書本社にて大賣捌致候に付地方注文へは**無郵稅**にて定價のまゝ需めに應ずべく候。尚ほ金森氏著の書は本號の女學雜誌紙上にて**細評**致候に付一覽ありたく又た物理學は二百六七號にて細評皆有益の書と信じ申候

詰替いらず　蒟蒻版及複寫用インキ　廣告

事務日々ニ頻繁ナラントスル今日ニ當テ時間冗費ノ不經濟ナルハ吾人ノ夙ニ感ズル處ナリ然レバニヤ近來蒟蒻版ノ需用益々急ヲ告クルニ至リ衆庶共ニ其便益ニ與ラントス是レ自然ノ然ラシムル處輕便ヲ追フノ人情當ニ然カアルベキナリ茲ニ弊舍販賣ノ蒟蒻版及複寫用インキハ品質ノ良佳精製ナルハ勿論其價格モ亦頗ル低廉ニシテ殆ンド他品ノ半額ニ比ス殊ニ贅直シ使用發明ノ義ハ所謂廢物利用ノ一程毫モ實質ヲ消耗セザレハ從テ詰替等ノ不便不經濟ナキヲ以テ特ニ弊舍ノ誇ル所ナリ希クハ江湖諸彥一面ヲ使用シテ以テ此言ノ未ダ足ラザルヲ知リ給フベシ尚我舍販賣蒟蒻版ノ他品ニ勝ルコト左ノ如シ

第一　價格ノ低廉ナルコト○第二　版地ノ精良トインキノ無類ナルトニ依テ複寫ノ紙數他品ニ優ルコト○第三　新發明ノ無洗法ヲ以テ使用スル時ハ毫モ實質ヲ消耗スルコトナシ故ニ詰替ヲ爲サズシテ永ク使用シ得ルコト

但シ洗滌使用スルモ妨ナシ勿論然ル時ハ詰替ヲ要ス

定價

一　美濃紙版　厚サ四分ニテ代金一圓八十錢
一　半紙版　同代金一圓卅五錢
一　同半板版　同代金七十五錢
一　端書版　同代金二十五錢
無洗用贅直シ加入藥一瓶代金三十五錢
但シ美濃形凡百度贅直シニ用フル分委細使用法書ニアリ
洗滌用海綿一箇幷インキ一瓶箱入代金三十五錢
右ノ外大小御注文次第但シ代價ハ右ニ準ス
一　版地實質目方百匁ニ付代金四十錢
但シ弊舍販賣ノ品ハ前述ノ如ク無洗法ニ依ルトキハ實質消耗セザルヲ以テ詰替ノ必要ナキモ若シ洗滌使用ノ方之アル節ハ右價ヲ以テ詰替ノ御注文ニ應ス
一　特製蒟蒻版インキ　一ヲンス入代金八錢
一　弊舍販賣ノ蒟蒻版御購求ノ御方ヘハ懇篤丁寧ナル使用法書ヲ進呈スベシ

明治廿四年六月

東京市牛込區赤城元町九番地
開進舍
北川正勇

金森通倫氏著

日本現今の基督教 並ニ將來之基督教

定價二十錢
郵稅四錢

六月二十二日發賣

著者が宗教社會に在るや久し實に既往を知り現今を知り將來を知る者なり今や右の著述成る其學理上より實際上より我邦基督教の現今を說き將來を說く處鑿々として肯綮に當らざるなし蓋し著者は不羈獨立忌憚なく研究すべき所は躊躇せずして之を研究し辯難すべき所は遠慮なく之を辯難し侃然凛然嬌々然宗教社會に一大改革を惹起して其腐氣を滌蕩せんことを望むのみ江湖の諸君速に購讀して著者精神の全注する所を玩味あらんことを

賣捌所

東京々橋區日吉町　民友社
東京日本橋區本石町　博文館
東京々橋區出雲町　警醒社
大阪西區土佐堀　福音社

畠山勇子

西京に自殺したる一女子が性格を評論し、其茲に至りたる因緣を推窮して、細かに其皮肉を穿ちたる社說は女學雜誌第二百六十八號にあり。之に續き其次號に於て、

自殺論

を掲げ、自殺に三種あることを說きて之を痛論したり。

第四月曜日發兌　全國一般無遞送料

史海　第貳卷目次

◎藤原鎌足……田口卯吉

鎌足の功績と云へば天智を助けて蘇我氏を誅し郡縣を起し、唐と戰ひ、官制を立て、律令を撰べり、而して君子を裝ひたる所は少々上手過ぎるなり、安見兒を擒りたる所は手際過ぎるあり

◎蘇格蘭の女王メリー……桑原啓一

佳人薄命と云へどもメリーの如きは稀なり、何ぞ其美なる何ぞ其慘なる

◎歐洲教育小史……久松義典

上は希臘羅馬より下は今日に至るまで教育の變遷を記すること極めて密なり

一冊價金十錢○一ヶ年分(十二冊)前金一圓

經濟雜誌社編輯

日本社會事彙

大本
上卷二千〇七十六頁　價金八圓
下卷二千三百四十頁　價金八圓

此書は國初より明治の今日まで政治、制度、法律、理財、商業、工藝、風俗等百般の沿革を統記し頭字を五十音に分ち加ふるに部門目錄を以て之を索引に便ならしめ且圖書の今日に存するものは大約之れを挿入せし國家無二の寶典也今般下卷を出版して全部完成せり請ふ購求あらんことを

廿四年六月

東京市京橋區彌左衛門町七番地
經濟雜誌社

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學生

第十四號

女學雜誌社 發行

每月一回發兌●一冊郵税共六錢

女學生
武道の化育……星野愼
まとひの筵
旅上母を想ふ……暗光子
春日の局……天知子
靑天の鳥……可愛子
讀書の流義……假名子
祈禱、感謝……川合信水
笑ふ者よ哀む者よ、○エホバの囲ひ……方寸子
客窓書感……末次
詩人の困難……詩軒
輕跳去れよ……野雄
睦びの家
普通學の必要（上卷）……（頌榮女學校）德澤くす子
孝せばや……（東洋英和女學校）宮川すみ子
山上の殿……（女子神學校）中谷早稻子
寸陰を惜むべし……（同上）松本錦子
醜女子……（女子學院）秋野女史譯
新樹を見る……（東洋英和女學校）丹羽環子
古の文を見て……（同上）吉田ひろ子
現今我邦に要する婦人……（立教女學校）堀場いさ子
寄せぶみ
臥牛山に登るの記……（函館女學校）根本松世
愛、我を励ませり……櫻水子
明治女學校音樂會に薙刀術を見て……のぶ
昔ばなし
述懷……不二山人

女學生仝盟各女學校は左の如し
○明治女學校○女子學院○新榮女學校○女子神學校○共立女學校○フエリス和英女學校○頌榮女學校○跡見女學校○立教女學校○成立舍女子部○女子獨立學校○海岸女學校○長榮女塾○東洋英和女學校○青山英和女學校○金城女學校○高田女學校

夏日の好伴侶

農學士。寺尾熊三君著

植物學

一冊五十頁
定價金十二錢

百花咲ひ、胡蝶すら之に戲むれ遊ばんとす、人や須からく其美妙を研究し、天地の全能を歎賞すべし、此書、植物學を尤とも平易に、尤とも分り易く解明す、今の時に際して、容易く草木一汎の妙理を悟るに至極の好方便を與ふ。定價僅かに十二錢に過ぎず。

女學雜誌社出版部

廣告定價

一行（廿七字詰）
一回　前金拾錢
同　三回以上　一割引
同　六回以上　二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す慈善上の事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

持別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を掲ぐるものにて一切無料さす但し紙面半頁分の廣告を載する每に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分每に十部增の割合さ定む

雜誌定價

一冊。　六錢　郵税。五厘（但府內無郵税）
十一冊。　五拾八錢　郵税。五錢（同　前）
半年分　壹圓四拾六錢　府外は　壹圓五拾六錢
一年分　貳圓六拾錢　府外は　貳圓八拾六錢

東京市麴町區下六番町六番地

發行所　女學雜誌社

編輯兼發行人　巖本善治

印刷人　堀口庄三